

G101c 現像液

整理番号 : 1015769_00011-1

作成日 2009/09/01
改定日 2018/09/18

日本アグファ・ゲバルト株式会社

1. 化学品及び会社情報

製品名 G101c 現像液 (G101c Developer)
 製品コード EKB8G
 用途 製版フィルム用現像液(濃縮液)
 会社名 日本アグファ・ゲバルト株式会社
 住所 東京都品川区西五反田 7-22-17 TOCビル 6階
 担当部署 グラフィックシステム事業部
 電話番号 03-6420-2010
 ファックス番号 03-6420-2011
 緊急連絡先 日本アグファ・ゲバルト株式会社 03-6420-2010(平日 9:00-17:00)

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性 該当区分なし
 健康に対する有害性 眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性 区分 1
 皮膚感作性 区分 1
 生殖細胞変異原性 区分 2
 発がん性 区分 2
 環境に対する有害性 該当区分なし
 ※記載がないものは、区分外、分類対象外、又は分類できない

GHS ラベル要素

シンボル

注意喚起語
危険有害性情報

危険
 ・重篤な眼の損傷 (H318)
 ・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ (H317)
 ・遺伝性疾患のおそれの疑い (H341)
 ・発がんのおそれの疑い (H351)

注意書き

- [安全対策] ・使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
 ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
 ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)
 ・ミスト/蒸気の吸入を避けること。(P261)
 ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)
- [応急措置] ・皮膚についた場合: 多量の水で洗うこと。(P302+P352)
 ・皮膚刺激又は発疹が生じた場合: 医師の診療/手当てを受けること。(P333+P313)
 ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)
 ・眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
 ・直ちに医師に連絡すること。(P310)
 ・ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診療/手当てを受けること。(P308+P313)
- [保管] ・施錠して保管すること。(P405)
- [廃棄] ・内容物/容器は法令に従って廃棄すること。(P501)

G101c 現像液

整理番号 : 1015769_00011-1

作成日 2009/09/01
改定日 2018/09/18

日本アグファ・ゲバルト株式会社

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物
化学名又は一般名

成分名	CAS 番号	化学式	官報公示整理番号		濃度又は 濃度範囲(%)
			化審法	安衛法	
水	7732-18-5	H ₂ O	対象外		70 - 80
亜硫酸カリウム	10117-38-1	K ₂ O ₃ S	1-453		5 - 10
炭酸カリウム	584-08-7	CK ₂ O ₃	1-153		5 - 10
ヒドロキノン	123-31-9	C ₆ H ₆ O ₂	3-543		1 - 5
亜硫酸ナトリウム	7757-83-7	Na ₂ O ₃ S	1-502		1 - 5
臭化ナトリウム	7647-15-6	BrNa	1-410		1 - 5
ジエチレングリコール	111-46-6	C ₄ H ₁₀ O ₃	2-415		1 未満
水酸化ナトリウム	1310-73-2	NaOH	1-410		0.5 未満

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

労働安全衛生法 名称等を通知／表示すべき 危険物及び有害物 ヒドロキノン(政令番号:461)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) 第1種指定化学物質 ヒドロキノン(政令番号:336)

4. 応急措置

- 吸入した場合
- ・被災者を新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 - ・医師の診断、手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合
- ・皮膚を速やかに多量の水で洗うこと。
 - ・皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診療、手当てを受けること。
- 目に入った場合
- ・水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 - ・直ちに医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合
- ・口をすすぐこと。
 - ・医師の診療、手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 消化剤
- ・本製品は不燃性である。火災時は周辺の物質に応じた消化剤を選択する。
- 使ってはならない
消火剤
- ・通常の状況下では、不適切な消化剤はない。
- 特有の危険有害性
特有の消火方法
- ・火災によって有害な蒸気/ガスが生成されることがある。
 - ・危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 - ・消火活動は、可能な限り風上から行う。
- 消火を行う者の保護
- ・消火作業では、適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
- ・作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
 - ・適切な保護具を着けていないときは、破損した容器あるいは漏洩物に触れて

G101c 現像液

整理番号 : 1015769_00011-1

作成日 2009/09/01
改定日 2018/09/18

日本アグファ・ゲバルト株式会社

- 環境に対する注意事項
封じ込め及び浄化
方法及び機材
 - ・はいけない。
 - ・河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
 - ・大量の場合、危険でなければ漏れを止める。
 - ・少量の場合、布などの吸収材で拭き取る。
 - ・除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。
- 回収・中和
二次災害の防止策
 - ・乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。
 - ・床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
 - 技術的対策
 - ・『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
 - 局所排気装置・全体換気
 - ・『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
 - 安全取扱い注意事項
 - ・取扱い後はよく手を洗うこと。
 - 接触回避
 - ・『10. 安定性及び反応性』を参照。
- 保管
 - 技術的対策
 - ・保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
 - 混触危険物質
保管条件
 - ・『10. 安定性及び反応性』を参照。
 - ・熱及び直射日光を避け、密栓して保管する。
 - ・強酸から離して保管する。
 - ・施錠して保管すること。
 - 容器包装材料
 - ・包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

含有成分の管理濃度、許容濃度

成分名	CAS 番号	厚生労働省告示 管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH
ヒドロキノン	123-31-9	未設定	未設定	TWA 2mg/ m ³
水酸化ナトリウム	1310-73-2	未設定	2mg/ m ³	TLV-STEL 2mg/ m ³

- 設備対策
 - ・本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には水道と洗眼設備を設置すること。
 - ・空気中の濃度を制御するには、一般適正換気で十分である。
- 保護具
 - 呼吸用保護具
 - ・通常は必要なし
 - ・換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。
 - 手の保護具
 - ・適切な保護手袋を着用すること。
 - ・天然ゴム製の手袋は避け、ブチルゴム・ニトリルゴム・ネオプレンを素材とした手袋を使用する。
 - 眼の保護具
 - ・適切な眼の保護具を着用すること。
 - ・化学飛沫用のゴーグル及び規格にあった顔面保護具を着用すること。
 - 皮膚及び身体の
保護具
 - ・適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。
 - ・一切の接触を防止するにはネオプレン製の、手袋、エプロン、ブーツ、又は全体スーツ等の不浸透性の防具を適宜着用すること。
- 衛生対策
 - ・取扱い後は手をよく洗うこと。
 - ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

G101c 現像液

整理番号 : 1015769_00011-1

作成日 2009/09/01
改定日 2018/09/18

日本アグファ・ゲバルト株式会社

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	形状	液体
	色	淡い黄色
臭い		ほとんど無臭
pH		10.8 (25℃)
融点、凝固点		<0℃
沸点、初留点及び沸騰範囲		> 100 °C
引火点		引火せず
蒸発速度(酢酸ブチル=1)		データなし
燃焼性(固体、気体)		該当しない
燃焼又は爆発範囲		不燃性
蒸気圧		データなし
蒸気密度(空気=1)		23.00hPa
比重(相対密度)		1.241 (20℃)
溶解度		水と完全に混和する
n-オクタノール／水分配係数		データなし
自然発火温度		データなし
分解温度		データなし
粘度		データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	・通常の温度及び圧力においては反応を起こさない。
化学的安定性	・通常の保管及び取扱いの条件においては安定である。
危険有害反応可能性	・通常の保管及び取扱いの条件においては危険な反応を起こさない。
避けるべき条件	・熱及び直射日光を避ける。
混触危険物質	・強酸、強酸化剤
危険有害な分解生成物	・二酸化硫黄を発生する場合がある。

11. 有害性情報

急性毒性	<ul style="list-style-type: none"> ・炭酸カリウム: 区分 4(経口) (NITE) ・ヒドロキノン: 区分 4(経口) (NITE、欧州 CLP) ・ジエチレングリコール: 区分外(経口) (NITE)、区分 4(経口) (欧州 CLP) ・混合物の急性毒性(経口)推定値が 2000mg/kgを超えるため、混合物として区分外とした。 ・混合物の急性毒性(経皮、吸入)はデータ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	<ul style="list-style-type: none"> ・水酸化ナトリウム: 区分1 (NITE)、区分なし(欧州 CLP:0.5%未満) ・炭酸カリウム: 区分 2(NITE)、区分 2 (欧州 CLP) ・本 SDS では欧州 CLP の分類結果を採用し、区分 2 の成分が 10%未満であることから、混合物として区分外とした。なお、NITE の分類結果を採用しても、同じ区分判定となる。
眼に対する重篤な損傷／刺激性	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒドロキノン: 区分 1(NITE)、区分 1(欧州 CLP) ・水酸化ナトリウム: 区分 1(NITE)、区分なし(欧州 CLP:0.5%未満) ・炭酸カリウム: 区分 2A(NITE)、区分 2(欧州 CLP) ・区分1の成分が合計 3%以上となるため、混合物として区分 1 とした。
呼吸器感受性	<ul style="list-style-type: none"> ・入手可能なデータからは区分外である。

G101c 現像液

整理番号 : 1015769_00011-1

作成日 2009/09/01
改定日 2018/09/18

日本アグファ・ゲバルト株式会社

皮膚感受性	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒドロキノン: 区分 1(NITE、欧州 CLP) ・炭酸カリウム: 区分外(NITE)、区分 2(欧州 CLP)
生殖細胞変異原性	<ul style="list-style-type: none"> ・区分 1 の成分が 1%以上であるため、混合物として区分 1 とした。 ・ヒドロキノン: 区分 1B(NITE)、区分 2(欧州 CLP) ・本 SDS では欧州 CLP の分類結果を採用して区分 2 とみなし、本製品中の濃度が 1%以上であるため、混合物として区分 2 とした。なお、NITE の分類結果を採用した場合は、混合物として区分 1B となる。
発がん性	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒドロキノン: 区分 2(NITE、欧州 CLP) ・区分 2 の成分が 1%以上であるため、混合物として区分 2 とした。
生殖毒性	<ul style="list-style-type: none"> ・ジエチレングリコール: 区分 2(NITE)、区分なし(欧州 CLP) ・本 SDS では欧州 CLP の分類結果を採用し、製品として区分外とした。なお、NITE の分類結果を採用した場合でも、同じ区分判定となる。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒドロキノン: 区分 1(中枢神経系)(NITE)、区分なし(欧州 CLP) ・炭酸カリウム: 分類できない(NITE)、区分 3(欧州 CLP) ・水酸化ナトリウム: 区分 1(呼吸器)(NITE)、区分なし(欧州 CLP) ・本 SDS では欧州 CLP の分類結果を採用し、混合物として区分なしと判断した。なお、NITE の分類結果を採用した場合は、混合物として区分 1 となる。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒドロキノン: 区分 2(腎臓、肝臓)(NITE)、区分なし(欧州 CLP) ・ジエチレングリコール: 区分 1(腎臓、肝臓)、区分なし(欧州 CLP) ・本 SDS では欧州 CLP の分類結果を採用し、混合物として区分なしとした。なお、NITE の分類結果を採用した場合でも、区分外となる。
吸引性呼吸器有害性	<ul style="list-style-type: none"> ・データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒドロキノン: 区分 1(NITE、欧州 CLP) ・水酸化ナトリウム: 区分 3(NITE) ・入手可能なデータからは混合物としての判定は区分外となる。
水生環境慢性有害性	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒドロキノン: 区分 1(NITE)、区分なし(欧州 CLP) ・本 SDS では欧州 CLP の分類結果を採用して区分なしと判断した。なお、NITE の分類結果を採用した場合でも、混合物としての判定は区分外となる。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従う。 ・自社で排水処理を行わない場合は、全量回収の上産業廃棄物処分業の許可を受けた業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を添えて、処理を委託する。 ・強アルカリ性であるため、酸で中和して処理する。
汚染容器及び包装	<ul style="list-style-type: none"> ・容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 ・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。
廃棄時に該当する法規	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理法: 産業廃棄物(廃アルカリ) ・水質汚濁防止法: 生活環境項目 ・下水道法: 下水の排除の制限

14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報	非危険物
	UN No.	該当しない

G101c 現像液

整理番号 : 1015769_00011-1

作成日 2009/09/01

日本アグファ・ゲバルト株式会社

改定日 2018/09/18

国内規制	航空規制情報	非危険物
	UN No.	該当しない
	陸上規制情報	該当しない
	海上規制情報	非危険物
	国連番号	該当しない
	航空規制情報	非危険物
	国連番号	該当しない
特別安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。 ・輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 ・重量物を上積みしない。 	

15. 適用法令

化審法	優先評価化学物質:ヒドロキノン
毒物及び劇物取締法	該当なし
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	第1種指定化学物質(ヒドロキノン) ※製品容量 10L 中に 595.7g を含有する。
労働安全衛生法	有規則:該当なし 特化則:該当なし 表示対象物質:ヒドロキノン 通知対象物質:ヒドロキノン
消防法	該当なし
労働基準法	該当なし
廃棄物処理法	特別管理産業廃棄物には該当しない
船舶安全法	該当なし
航空法	該当なし
港則法	該当なし
大気汚染防止法	有害大気汚染物質:ヒドロキノン
海洋汚染防止法	施行令別表第1有害液体物質(C類) 施行令別表第1の2有害でない物質
特定有害廃棄物輸出入規制法	法第2条第1項第1号イ/三省告示
水質汚濁防止法	有害物質:該当なし 指定物質:フェノール類及びその塩類(ヒドロキノン)

16. その他の情報

記載内容に関する 問い合わせ先	日本アグファ・ゲバルト株式会社
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・Agfa-Gevaert N.V.による欧州向け SDS (24.10.2016) ・NITE 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
記載内容の取り扱い について	記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における科学または技術に関する全ての情報が検討されているわけではありません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いいたします。